

東都にては

東京音樂學校にては本年四月に入學すべき生徒を募集せり其數は豫科約三十人甲種師範科約三十人乙種師範科二十人なり志望者は來三月一日より十日迄の間に願書を出すべきなり

同校にてはハイドリッヒ氏辭職につき後任者不曰着任すべしと、フレツク嬢の後任も同様来るべしと

(「音樂世界」第三卷第二号 明治四十二年二月 一〇頁)

▲(音樂を學ぶには) またヴァイオリンは何程よりありますか (相澤生)

東京音樂學校が宜しいでせう中學一年卒業者は唱歌體格の試験を受け合格した者は豫科に入る事が出來ます甲種師範科は中學師範學校卒業以上乙種は高等小學卒業以上の學力が入ります選科は午後或は夜間教授を受けられます、ヴァイオリンは五圓位からあります樂器店から代價表を取よせて御覽なさい

(「都新聞」明治四十二年四月八日)

二 大正年間

(一) 入試問題

東京音樂學校入學試驗問題集(一)

(大正十三年度)



(新曲)

甲種師範科之部

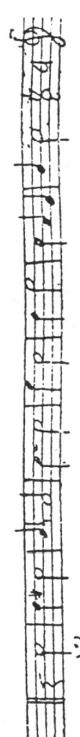
樂典試驗問題

一、『ぐ』・『・』・『二』・『重變口』の各音を高音部譜表に『嬰ホ』『重嬰ト』『ハ』の各音を低音部譜表に表せ

二、次の樂譜中の符號『・』・『』に就いて説明せよ



三、次の旋律を一半音低き調に移せ



四、次の二重音唱歌中の同時に響く兩聲間の音程に名稱を附せよ



唱歌科試驗問題

第一回

(聽音)

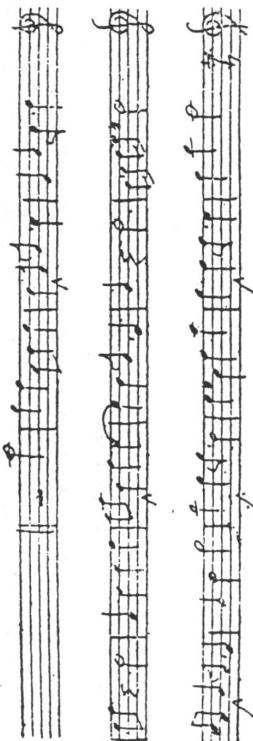




(唱歌集)

小學唱歌 第三編 秋草

第二回



春の夜は静かに更けぬ。
はゆま路の竝木のけぶり、
箱馬車は轍をとりて、
宮津より由良へ急ぎぬ。』
『臘夜の窓のあかりに、
京むすめ難波あきうど、
朽尼や切戸まうでや、
人の世の旅の道づれ。』
物語、缺伸まじりに、
眠り目のとろむとすれば、
誰が子にか、後への方に、
をりからぬ追分ぶしや。』

國語科試験問題

一、左の和歌を説明せよ。

○ときはなるまつのみどりもはるくれば
いまひとしほのいろまさりけり

○おやなげばこさへなくなりよのなかの
せむすべなさもなにもしらずて

二、左の文章中傍線を施した箇所を取出して詳解せよ。

頼朝の墓此處ぞと上り見れば薦にからまれ、昔に蒸されたる
五輪の塔の一つ。これが天下總追捕使のなれの果にぞありけ
る。鎌倉の宮に詣でて神前に跪けば、何とはなしにはや胸ふ
さがりて、はぶり落ちつる涙拂ひもあへず。
梅が香に咽びて零るる涙かな。

三、左の詩を詳説せよ。但し詩趣の解明を主眼とする事。

忍びてはえこそ忘れぬ、
由良の夜の追分上手。』

やの子今何處にあらへ
思ひ出の清あかたみや、
人々の心に生めり、
ふじむさに愁わなかれ。』

四、次の漢字にて詰せらる語の活用を示せ。

悔。 面丑。 悲。 行。 舞。

五、作文（口語文に限る）

唱歌の必要。

英語科試験問題

英文和譜

(1) Yesterday we had a sultry afternoon.

The heat was unbearable. We went out into the field. Soon the sky became cloudy, the wind began to blow very hard. Suddenly the lightning flashed in the sky, and we heard a rolling noise in the distance. It was thunder.

(2) Air surrounds the earth. Go where we will, we find it.

Indeed, we need air every minutes of our lives. Men have lived for days without food or water, but they can not exist even one hour without air.

程文英譜

(1) 出本が済へだい回か日本のみのや讀めへん題のや。

(1) 今朝私は一番列車に間に合ひやへと叫起れりした。

(11) 人は生活を恥ぢてはならない。

(四) ふじむは易へ行くじむは難。

豫科文部

樂典試験問題

甲種師範科に回

唱歌科試験問題

第一回



第一回 (聲樂科志望者のみ)

ノハーネト作品九番歌五十教課第11十五編の程度

J. Concone, op. 9. 50. Leçons de Chant.

器樂科試験問題

第一回

器樂大観

第一回 (器樂科志望者のみ其樂器にてや)

△ピ ア・ノ・ソナティナ又は簡易なソナタの程度
△ヴァイオリン ホーマンのヴァイオリン教科書第一輯の程度
△セ 口 ヴエルナ作品十二實用セロ教科書第一輯の程度
△オルガン ラインハルド作品七十四ハルモニウム實習（五十練習曲及演奏曲）第一編の程度

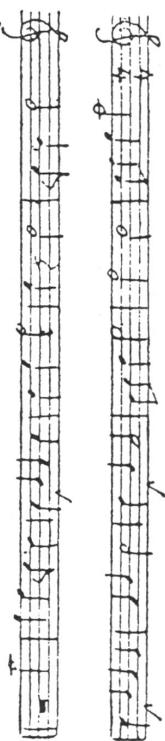
習曲及演奏曲）第一編の程度

夫にいふやう、晏子は身の長六尺にも満たず、然るに齊國の相として、其の名諸侯の間に穩れなし、思慮深ければ、出入にも人に下る風あり。良人は身の長八尺、御者となりて誇らしき色あるはあさましからずやといふ。夫大いに恥ぢてこれより自ら抑損せしかば、嬰は其の志を賞して次第に之を登用したりといふ。

乙種師範科之部

唱歌科試験問題

第一回



第二回

小學唱歌集 第一編 若葉

國語科試験問題

一、次の文をわかり易い口語文に改めなさい。

むつきはじめの梅が香は早くも春を告げわたりて野邊のやけあと萌えそむるは人の心も時めく頃か。苦屋どもに岩海苔の薫れるもをかしく、蘆の屋に心細く立ち登る煙も長閑なり。

二、次の文の中から傍線のついてゐる語句をぬき出してくはしく説明なさい。（以下印刷の都合上傍線を傍點にして置く）

春秋の頃晏嬰といふ人、齋の國の相となれり。其の御者馬に練ちて、揚々として自得せる色あり、御者の妻これを見て、

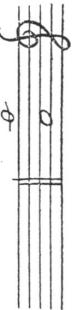
臨時教員養成所之部

樂典試験問題

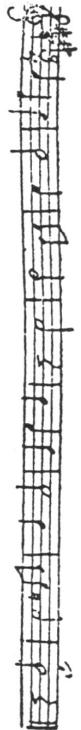
(一) 有鍵樂器(ピアノ又はオルガン)の鍵盤の一部を書きて次の諸音を指示せよ。

變口、嬰ホ、變ト、變ハ、

(二) 次の音の上方五度音程に當る諸音及び下方五度音程に當る諸音を指示せよ。



(11) 次の樂譜中の諸記號について簡単に説明せよ。



(12) 次の樂語の意義を問ふ。

Presto. Cresc. Ten. Adagio.

唱歌科試験問題

其一



- 三 次の漢字にて記せる語の活用を示せ。
樂。終。恥。似。修養。

四 作文 (口語文のこと)

○春宵

尙ほ今年（大正十五年度）の入學手續に就いては念の爲めに左に記して置く。

入學定員 豫科約三十人（男女合計）甲種師範科約三十人（男女各十五）乙種師範科約二十人



國語科試験問題

1 次の和歌を解釋せよ。

○うらへとのどけき春の心よりにほひ出でたる山の花
○櫻ちる木の下風は寒からで空にしられぬ雪ぞふりける

2 次の文中傍線を施した箇所を抽出して解説せよ。

日本國民は（一）かけまくもあやに畏き現つ御神を上に戴き奉る。（二）楫なき舟は行方を知らず、主腦なき團體は蜘蛛の子と散るべき烏合の衆なり。

國民には之を導くべき、（三）理想の光なかるべからず。現つ御神は（四）赫耀として千秋ゆるぐことなき大光明と申すも恐あり。（五）一道の靈光脈々として古今に涉り仰望せる國民は精髓をいに養ひ、理想をこれに求めて活動す。



入學試験の日割 三月二十六日豫科第一回唱歌 同二十七日甲師同上 同二十八日豫科第一回器樂 甲師國語、同二十九日豫科國語外國語、甲師器樂、乙師唱歌、同三十日豫科樂典、口頭試験、甲師第二回唱歌樂典、乙師國語、四月一日豫科第一回

唱歌器樂、甲師英語、口頭試験、乙師口頭試験、同三、四、五
日各科とも身體検査

入學出願期限　願書其他の書類に受験料金五圓を添へて二月二十一日から同二十八日迄の間に差出すこと尙詳細は同校の入學案内を（郵便貰錢封入し）貰ひ受けるべし

（『月刊樂譜』第十五卷三号 大正十五年三月 五三～五七頁）

受験者の爲に

別頁に於て、樂壇諸名氏の御驗談や、御忠告が出て居るから、此
れは蛇足に終るかも知れないが、若しや爲になる事でもあるかと思
つてつけ加へて置く。標準は上野の音樂學校である。一等大切なのは聽音と唱歌とである。新曲を讀む事の力も其の次に大切である。

併しながら、英語や樂典や國語も馬鹿にしてはならない。今まで
は樂器の方は第二に見られて來たのであるが、去年あたりから唱歌と
同様重く見られると云ふ事である。

一等見當のつかないのは聽音である。どうして試験するかと云ふ
に、第一に調子、拍子、小節の數を示し、次に其の曲を二回全部彈
く。それから三四小節づつ區切つて、二三回づつ終まで彈き、最後
に又全曲を一緒に彈く。であるから一等始め全曲をひく時は、大體
をつかんで筆は取らぬ。二回目には音程丈かきとる。第三回には音
符の長さ、休止、小節の區切りを入れる。そして最後の全曲を彈く
時に誤りをなおす様にした方がよいと思ふ。

入學資格

豫科 中學四年、又は高女本科四年を終つて入學試験に通つた

者、豫科は本科の準備で目的は民間に所謂音樂家として立つのが主
眼である。修業年限一ヶ年。

本科、研究科 豫科を卒業した人は本科、本科を卒業した人は希望によつて研究科に入り得る。修業年限本科三ヶ年。

甲種師範科 師範學校、中學校、四ヶ年以上の高等女學校本科を卒業し、其の各學校長の推舉をうけた者につき入學試験を行つて合格した者。中等學校の音樂教師の資格を得。年限三ヶ年。

乙種師範科 中學又は修業年限四ヶ年以上の高女を卒業せる者。
年限一ヶ年。小學教員の資格を得。

試験科目

豫科 第一回、(1)聽音、新曲、唱歌、(2)樂典大要、(3)樂器、(但し聲樂を收むる者もピアノ或はオルガンの中一つを必要) (4)國語、(5)外國語、第二回、唱歌はコールユーブンゲン、小學唱歌三冊（中特に第三編が大切）コンコーネ廿五番、ピアノはソナタアルバム中の三番か四番か、とにかくソナタにて受験する事。其れに進む前にバイエル、チエルニー卅番、ソナチネアルバム中數曲、チエルニー四十番、ソナタアルバム中數曲、オルガンはラインハルド練習曲でうける事、其の前として中田氏オルガン教科書。同練習曲で練習する。ヴァイオリンはホーマン三卷まで確實にやる事、其以上無暗に進むは悪い。セロはヴエルナー作品十二實用セロ教科書第一編の程度。

甲種師範科 唱歌、樂典、國語・英語は同前、器樂はオルガン、
ピアノ、ヴァイオリンの一を撰はせ、基礎練習と簡易な樂曲を奏せしむ。

乙種 唱歌、音階と小學唱歌。

臨時教員養成所 資格は師範、中學、高女卒業者又は其れと同資格を有する者、小學本科正教員、音樂學校乙師卒業者、小學校唱歌正教員等にして試験に合格したる者（但し女子は夫なき者に限る）、入學試験科目は唱歌、器樂（ピアノ或はオルガン）、樂典、聽音、新曲、國語等。程度は甲師に準ず。

一般注意

第一によい教師につく事、歌ひ方は氣取らずに素直な事、甲種師範が駄目だつたら臨教の方をうけて見るがよし。豫科はよほど天才的の閃きがないと駄目。手續は毎年多少變更があるからよく注意する事、殊に十一月から二月までの官報によく注意する事。願書の提出は早い方がよい。（或理由があるとの事）

文 檢 試 驗

〔省略〕

音樂學校所在地

〔省略〕

大正十五年度音樂學校試験問題

樂 典

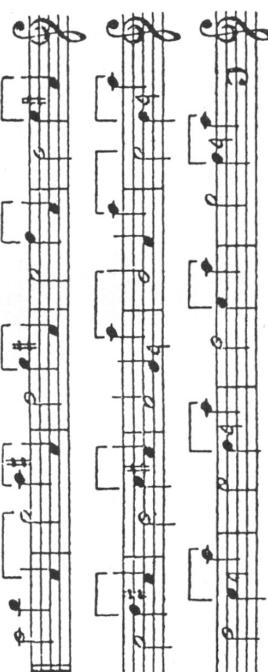
豫科及甲種師範科

1. 西洋音樂に普通用ひらるる拍子を分類し且其のアクセントの所在を示せ。
2. 一點へ音を主調音として調號を用ひて長音階及び和聲的短音階を記し、且其等と調號を等しくせる調の名稱を附記せよ。

聽 音

1. (イ) Dolce Cantabile (ロ) Adagio (ハ) Diminuendo
- (二) Da Capo (三) Andante maestoso

3. 次の旋律中括弧を以つて連結せる音程の名稱を問ふ。



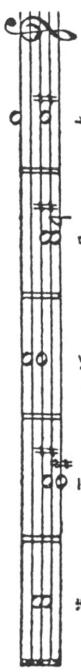
4. 次の樂曲を短三度高く移調せよ。



臨時教員養成所

〔省略〕

1. 音階各度の名稱を問ふ。
2. ト調長音階の關係調（五個あり）を記せよ。
3. 次の音程を問ふ。



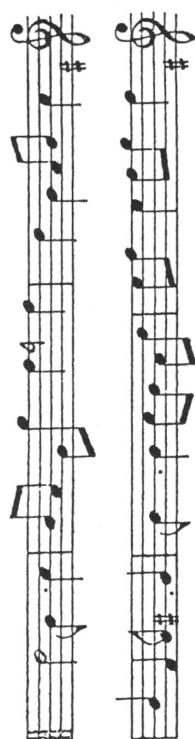
4. 次の樂語の意義を説明せよ

大正十五年度



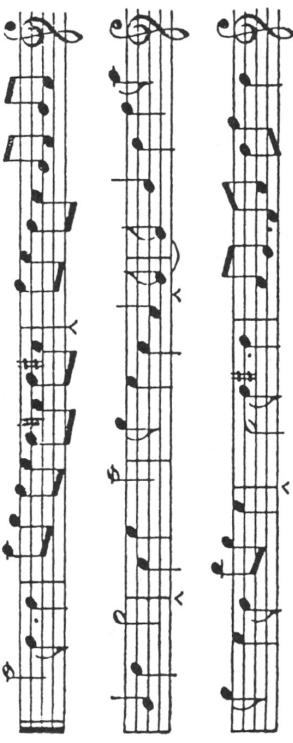
新
豫
曲

大正十五年度



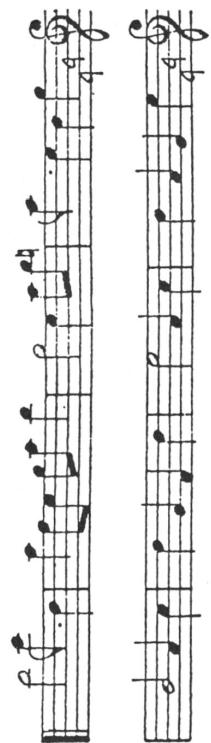
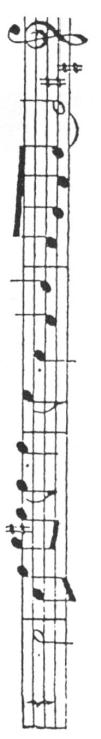
甲種師範科

大正十五年度



甲種師範科 第一回

大正十五年度



臨時教員養成所



大正十五年度

同科 第二回

大正十五年版



臨時教員養成所

大正十五年版



乙種師範科

大正十五年版



小學唱歌

甲種師範科 (第三編、頭の雪)

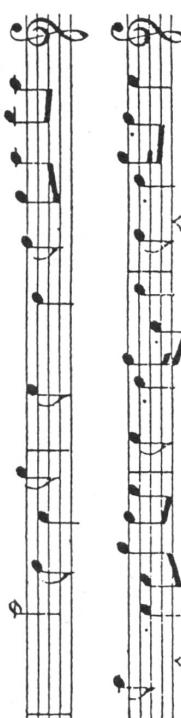
臨教 (第三編、招魂祭)

乙種師範科 (初編、富士の雪)

コンコーネ (第十二番)

(『樂星』第三卷第二号 昭和二年二月 一一四~一一〇頁)

[横組]



(一) 関連資料

東京音楽学校の豫科
有無及若し試験があるとしますと受験科目はどんなものですかを教へて下さい (本所同文)

入學試験があります、高等女學校二年修了程度にて國語、日本歴史、日本地理、算術、英語、普通樂譜(大要)、唱歌の七科目の試験をされます、但し高等女學校二年級を修了したる者は右の内國語歴史地理算術の試験はありません

(『都新聞』大正三年一月十八日)

東京音楽学校生徒募集 本年四月同校に入學せしむべき生徒を募集要領は大正六年十二月二十四日官報にて發表せられたり、左の如し。